

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	経済学		
担当者(Instructors)	中山 孝男	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)			
<p>経済学の基礎的内容を、15回に分けて講義する。ここでいう「基礎的内容」とは、就職試験、資格試験等において最低限必要な事項、および将来社会人として活躍する際に身につけておくべき一般常識の一つを意味する。下の授業計画を見てわかるとおり、この授業では経済について浅く幅広いテーマを取り扱う。そうしてどの分野でもよいが経済学に興味を持ち、実際の経済現象の意味及び他の出来事との関連が少しでも理解できるようになってもらえるような授業としたい。</p>			

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	下記テキストに沿って毎回1つの章を詳しく説明する。毎回の授業では、まず予習のための「確認問題集」の答え合わせを行う。その後、テキストの内容より少しだけ高いレベルの応用的な話をしていく。できる限り現実の経済が理解できるように最新の経済ニュースを取り上げそれについて解説する時間を長くとることにしたい。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	この授業の概要説明	この授業で学ぶ目的、学ぶ内容、および授業の進め方を説明し、履修する上での注意点、受講する際の約束、成績評価の方法などを伝え、互いに確認する。	<input type="checkbox"/>
第2回	市場の仕組みと物価の動き	商品が売買される場、すなわち市場で何がどのように起こっているのかを、価格や物価の動きを中心に説明する。	<input type="checkbox"/>
第3回	経済の仕組みと家計	経済全体の仕組みの中で、私たちの生活に関わる経済活動（とくに消費）がどのようにして行われているのかについて説明する。	<input type="checkbox"/>
第4回	私たちの生活と労働	家計の経済活動のうち、前回の消費と並んで重要な労働すなわち働くということを中心に説明する。	<input type="checkbox"/>
第5回	資本主義経済と企業	毎日の生活がなされている今の経済制度は、資本主義経済とよばれているが、その制度の特徴、およびそこで活動している企業について説明する。	<input type="checkbox"/>
第6回	貨幣と金融	貨幣とは何か、金融とは何か、どのような役割をしているのか、どのような仕組みになっているのか、などについて説明する。	<input type="checkbox"/>
第7回	財政の役割	家計と企業だけでは経済はうまく回らない。そこで必要となるのが政府である。そうした調整役である政府の経済活動すなわち財政について説明する。	<input type="checkbox"/>
第8回	景気循環と政府の政策	資本主義経済にとって不可避な景気循環とそれに対する景気対策などについて説明する。	<input type="checkbox"/>
第9回	社会保障の仕組み	市場原理に任せているだけでは解決できない問題の1つに福祉の問題がある。それを含めて社会保障について説明する。	<input type="checkbox"/>
第10回	国際経済と日本（1）	「経済のグローバル化」が叫ばれて久しい。ここでは、貿易の意味、国際収支について説明する。	<input type="checkbox"/>
第11回	国際経済と日本（2）	前回の内容を受けて、外国為替相場と国際経済全般について説明する。	<input type="checkbox"/>
第12回	戦後日本経済の歩み（1）	前回まで学んできたことを理解した上で、日本経済が歩んできた歴史を、第二次世界大戦直後から高度経済成長期にかけて説明する。	<input type="checkbox"/>
第13回	戦後日本経済の歩み（2）	前回到続き、日本経済が歩んできた歴史を、高度経済成長期から2度の石油ショックが起きた1970年代まで説明する。	<input type="checkbox"/>
第14回	戦後日本経済の歩み（3）	前回到続き、日本経済が歩んできた歴史を、バブル経済が発生した1980年代を中心に説明する。	<input type="checkbox"/>

第15回	戦後日本経済の歩み（４）と総まとめ	前回到続き、日本経済が歩んできた歴史を、バブル経済が破裂した後から現在まで説明し、全体の総括とする。	□
------	-------------------	--	---

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習：テキストを読み、「確認問題集」の問題を解く（90分） 事後学習：「確認問題集」の解答および授業で扱った応用範囲を復習する（90分） これら以外に、事前・事後学習の両方の意味で、毎日10分以上新聞（とくに経済面）を読む（60分以上）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

「確認問題集」の正解は、次回の授業開始時に簡単な解説を付けて示す。事前に提出した自分の解答を自己採点する。途中2回レポート提出を課す。これは採点し、返却する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	テキストの内容が理解できる。 経済社会の動きとその意味を考えることができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
40%	0%	0%	0%	60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

5週目、10週目辺りで、レポートを2度提出してもらう。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	高橋勉『「公民」が苦手だった人のための現代経済入門教室』三恵社、2018年	978-4-86487-793-0
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		